

令和2年度 家庭教育支援プログラム指導者研修④ 実施報告

実施日：令和2年7月21日（火）

新型コロナウイルス感染防止を考慮し、予定されていた第5回の内容を今回の研修日程に組み込み、最終回として実施しました。また、新型コロナウイルス感染防止のため、「3密」回避対策、受付時の健康チェック及び検温を行い、卓上シールド（県央産業技術専門校より借用）を準備して実施しました。

【午前の研修】

○ 説明・演習「ファシリテーター演習に向けて」

河内教育事務所ふれあい学習課 副主幹 石塚 秀幸

芳賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹 高久 和代

那須教育事務所ふれあい学習課 副主幹 横田 洋勝

演習では親学習プログラム「子どものいいところを伸ばそう」と「楽しく生活していますか？～遊びと学習～」のそれぞれのプログラムを体験しました。

教育事務所の担当者がファシリテーターとなり、プログラムを進めるために、どのような考えや工夫が必要なのか、30分という短い時間の中で、ポイントを押さえながら説明がありました。同じプログラムをファシリテーターとして班ごとに展開する午後の演習に向けて、今まであまり意識していなかったファシリテーターの動き、言葉かけの内容や言葉をかけるタイミング、受講者を観察しながら進めるプログラム管理、受講者との距離感など、ファシリテーターとしての重要な要素や大切な部分について、多くのことを学びました。



【午後の研修】

○ 演習「親学習プログラムファシリテーター演習」

総合教育センター職員

第5日に予定されていた研修内容を行いました。これまでの研修の学びを生かしながら、午前の演習で体験した2つのプログラムを、2～3名の受講者で構成された班がファシリテーターとして実際に展開しました。

準備時間が短い中、教育事務所の担当者などからの助言を参考に、班ごとに話し合いを進め、班として押さえないプログラムのポイント、プログラムを展開する際の時間配分や役割分担などを決め、演習に臨みました。演習では、準備したことを存分に発揮した、各班のオリジナリティが溢れる時間となりました。演習後は、自分たちの班のプログラム進行などについてふりかえりを行うとともに、他班の進行からも新たな学びや気づきを得ることができました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・参加者としてファシリテーターの動きを観察した経験はありましたが、実際に自分でやってみて、難しさを感じました。今回、ファシリテーターをやったことが大きなプラスになると思います。
- ・ファシリテーターを体験し、1つ1つのワークが何のために設定してあるのかを検討することで、より良い展開になることを理解しました。
- ・ファシリテーターを体験したからこそ、ファシリテーターの指示の適切さ、共感力や参加者に寄り添うことの重要性を改めて実感できたと思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp